# 学生向け路線バス利用促進実験について

内閣府
沖縄総合事務局

沖縄県内の路線バス利用者数は減少し、都市部では交通渋滞が慢性化しています。通学交通に関しても、自家用車送迎による学校周辺の渋滞や学校近隣住民への迷惑、事故防止等、解決すべき問題は少なくありません。

そこで、学生を対象とした「学校MM（モビリティマネジメント）」と自家用車から路線バスへの転換実証実験を実施することにより、学生に特化した公共交通利用の活性化と移動手段の分散等による渋滞緩和を目指します。

## ○学校MM（モビリティマネジメント）の実施

### ■路線バス利用意識啓発ツールを那覇商業高校生へ配布

路線バスへの転換を促すため、平成26年度に作成されたパンフレットを12/18のニーズ調査アンケート及び実験参加申込書と併せて配布しました。

▲学生向け意識啓発用パンフレット

### ■県内高等学校向け通学バス運行情報サイト「通学バスなび」を構築

通信制を除く沖縄本島の高等学校58校を対象に「通学バスなび」を構築し、個々の学校の通学ニーズに応じた情報提供を行いました。

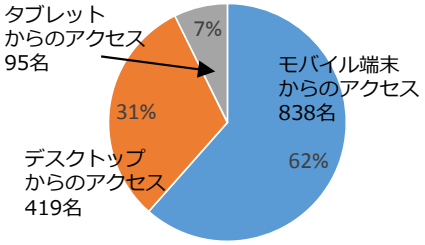
また、本実験のモデル校である那覇商業高校の校内に「通学バスなび」をタッチパネルで操作できるデジタルサイネージを設置しました。

「通学バスなび」の利用状況として、対象の58校全校での利用があり、個別アクセス人数合計は1,352名、全ページプレビュー合計は2,369回を記録しました。（1/9～3/20時点）

※なお、最多利用は那覇商業高校で、利用者170名、ページプレビュー249回

▲「通学バスなび」画面とモデル校へ設置したサイネージ

| 「通学バスなび」のサイト利用状況（1/9～3/20時点） | |
|---|---|
| 個別アクセス人数合計（名） | 1,352 |
| 全ページプレビュー合計（回） | 2,369 |




▲「通学バスなび」のサイト利用状況とアクセス元の内訳

# 学生向け路線バス利用促進実験について

内閣府
沖縄総合事務局

## ○学校MM（モビリティマネジメント）の実施（続き）

### ■学生向けバス利用促進イベントを開催

3/8～3/10の3日間、県内の学生を対象に、「路線バスプロモーション動画をつくろう！～プロフェッショナルとつくる動画作成チームビルディング～」の取組みを実施しました。

参加者は県内の高等学校、専門学校、大学より12名の学生が参加しました。
（12名が4名×3チームに別れて各チーム1本の動画を作成）

動画の作成においては、参加した学生が選んだ県内のバス停を題材に、撮影時の移動を含め路線バスを実際に利用して撮影を行いました。

作成した動画は、3/10の取組み最終日に「那覇めしグランプリ」の特設ステージで一般の方々へ向けて上映しました。

▲1日目のオリエンテーションの様子

▲2日目の現地ロケ動画撮影の様子

▲2日目の動画編集の様子

▲3日目の「那覇めしグランプリ」での動画上映会の様子

※作成した動画は下記のURLに示すYouTubeへアップロードしております。

【 https://youtu.be/vgNffwFT_RU 】、【 https://youtu.be/80-zCx34eBw 】、【 https://youtu.be/hzDCPCSRiHw 】

# 学生向け路線バス利用促進実験について

内閣府
沖縄総合事務局

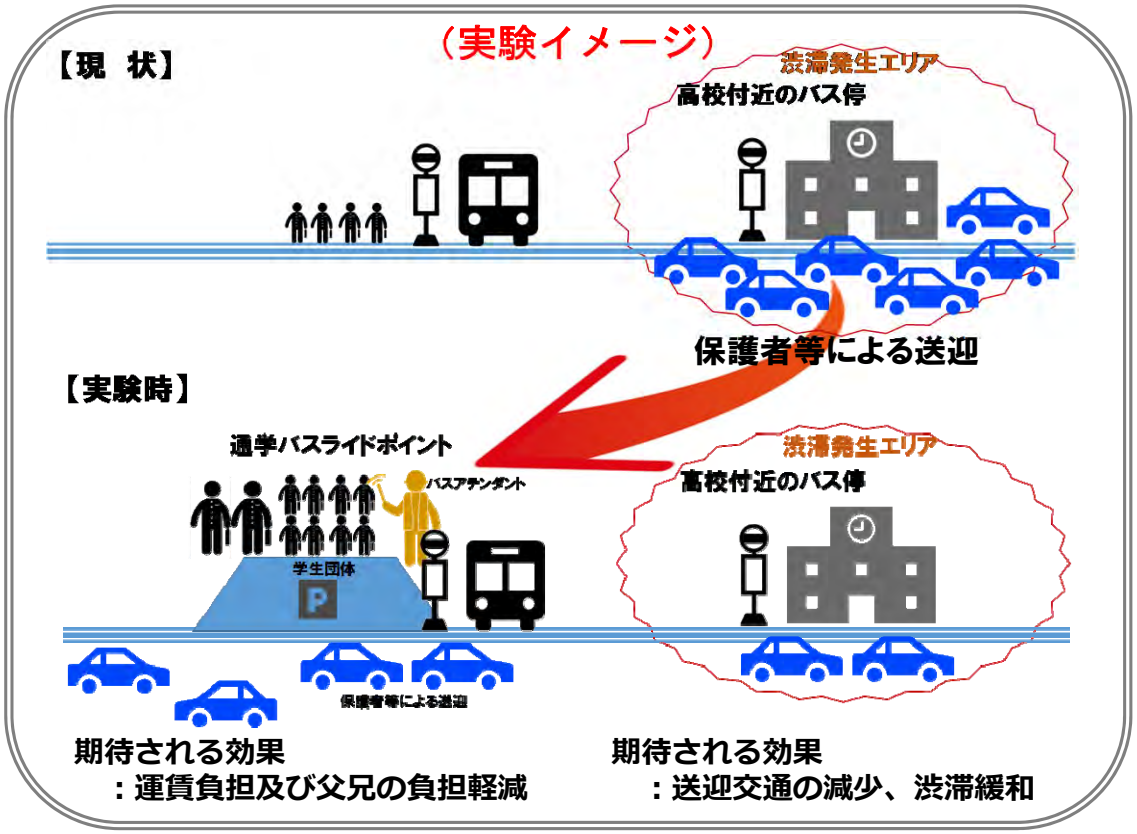
## ○自家用車送迎から路線バスへの転換実証実験の実施

**■既存路線バス停を利用した通学バスライドポイント実証実験（実験期間：平成３０年１月９日～３月２３日）**

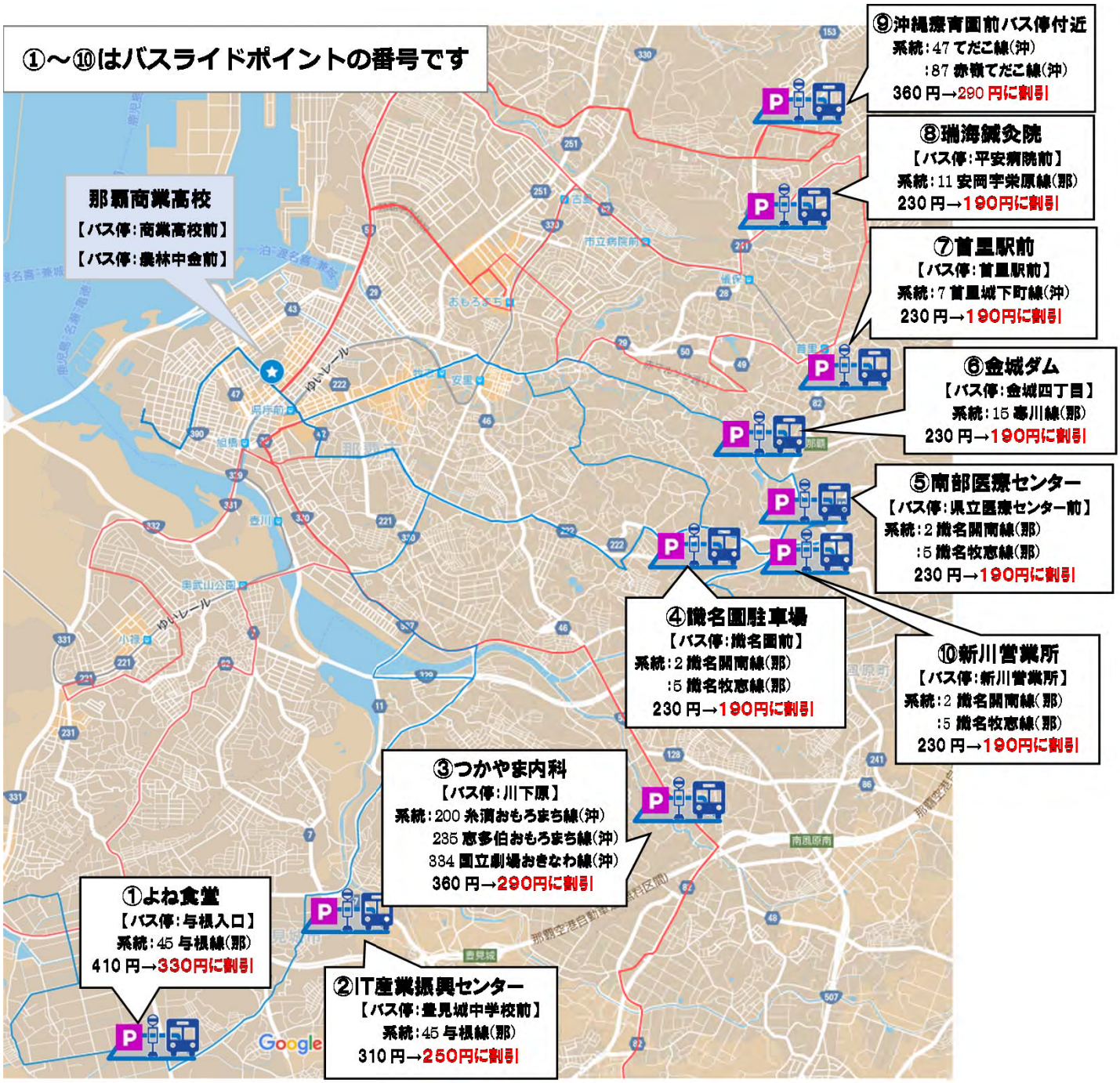
那覇市中心部に位置する「那覇商業高等学校」をモデル校とし、主な通学手段として自家用車送迎で登下校をしている学生を対象とした路線バスへの転換実証実験を実施しました。
当学校への通学に適している路線バスを抽出し、渋滞エリアを避けた郊外に「通学バスライドポイント」を設け、自家用車送迎を学校までではなく、通学バスライドポイントへの変更を促しました。
通学バスライドポイントを利用してバス通学する学生の人数を事前に把握することで団体利用（同一区間を複数人で乗っている）として扱い、団体割引運賃（通常運賃から2割引）を適用しました。

事前に団体利用申込をした学生には、学校名や区間、割引運賃等を記載した「学生団体乗車証明書」 を発行し運転手へ証明書を提示して、割引を適用しました。
通学バスライドポイントにはバスアテンダントを配置し、学生へのバス利用方法のレクチャーや安全確保、学校との連絡調整役を担いました。

▲通学バスライドポイントの一例「県立医療センター前」



# ■通学バスライドポイントと併設するバス停一覧




## 高校付近のバス停と対象路線

（農林中金前のバス停へ到着する路線）

- 7 首里城下町線(沖)
- 11 安岡宇栄原線(那)
- 47 てだこ線(沖)
- 87 赤嶺てだこ線(沖)
- 200 糸満おもろまち線(沖)
- 235 志多伯おもろまち線(沖)
- 334 国立劇場おきなわ線(沖)

（商業高校前）

- 2 識名開南線(那)
- 5 識名牧志線(那)
- 15 寒川線(那)
- 45 与根線(那)

## 凡　例

：那覇商業高校

：通学バスライドポイント

：商業高校前まで行く路線

：農林中金前まで行く路線

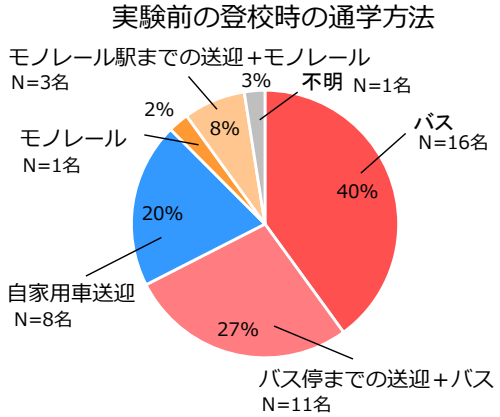
# 学生向け路線バス利用促進実験について

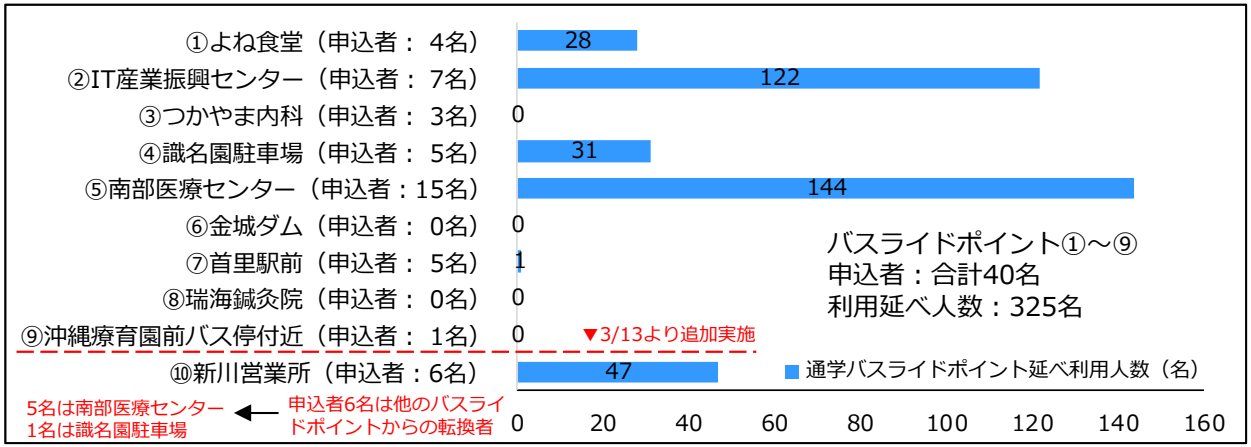
内閣府
沖縄総合事務局

## ○自家用車送迎から路線バスへの転換実証実験の実施

### ■実験結果

実験申込者は合計40名で、実験前の登校時の通学方法の内訳として、バス通学の生徒は16名、バス停まで自家用車送迎を利用しバス通学していた生徒は11名、自家用車送迎で通学していた生徒は8名でした。
通学バスライドポイント全9地点の実験期間中（1/9～3/16時点）の延べ利用人数として325名が利用しました。
※3/13より新川営業所をバスライドポイントへ追加した結果、延べ利用人数は47名でした（3/13～3/20時点）




### ■考察

実験申込者として、自家用車送迎利用者（バス停・モノレール駅までの送迎を含む）が半数以上（22名）確認されたことから、通学バスライドポイントの設定により一定数の自家用車送迎者へ路線バスの利用促進効果が期待されます。
当初より設定していた通学バスライドポイント「南部医療センター」から直線距離で約200mの「新川営業所」を通学バスライドポイントへ追加した結果、送迎車両の乗り入れ動線や、生徒の乗降のしやすさ等、利便性の面で「新川営業所」の利用を選択した生徒が多かったと考えられます。

### ■今後の展開

モデル校を那覇市内の高等学校数校を対象に実験の実施を検討します。
交通結節点として送迎車両の乗り入れ動線やアクセスの良い通学バスライドポイントの設定を検討します。